ワタとその栽培について　　How to grow cotton in Ina

伊東美水

はじめに

「コットンボールがはじけているところを見てみたい。できれば育ててみたい」と以前から考えており，前任校（阿南町立新野小学校）で当時３年生の子どもたちと「ワタ作り」に挑戦してみた。しかし，寒冷地であったためか，うまく育てられず失敗をしてしまった。その後、伊那小学校へ赴任し、伊那養護学校の中の原分室（上農高校内）で綿の栽培をしていることから，伊那市で綿を育てられることを知り「子どもたちとワタを育てられたらいいな」という思いを抱いた。

クラスの子どもたちは、３年間続けて畑で育てる経験をした。そして、収穫したワタから糸をつむぎ，布を織る活動をした。これまでのことをふり返りながら、ワタについてのこと、そしてその栽培についてまとめてみた。

１　ワタについて

＜和綿の花＞

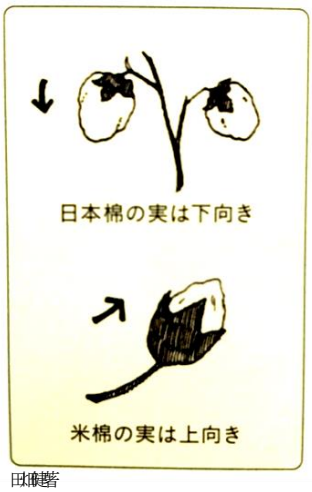
ワタは，オクラやハイビスカスなどと同じアオイ科の植物で，世界の温暖な地域でそれぞれの気候に合わせた品種が作られている。また，ワタの種類によって繊維の長さや太さが違うため，用途も異なる。漢字では、種を取る前は「棉」と書き，種を取ると「綿」と書く。

品種	繊維の長さ・太さ	おもな用途
アジア綿	短くて太い	ふとんわた　中いれわた　脱脂綿
アプランド綿	アジア綿と海島綿の中間	機械紡績により，糸以外にも様々なものに利用される
海島綿	長くて細い	細い糸　高級品

子どもたちは５年生の時に，アジア綿である「和綿」とアプランド綿（洋綿）を育てた。和綿は繊維が短くて太いため，糸はつむぎにくいが，太めの糸をつむぐと風合いのあるものができる。（「ワタの絵本」より）

「和棉」･･･比較的低温･多湿な日本の気象条件でもよく生育する。また，和棉は下に向って実をつけるので，雨や湿気の影響を受けやすい日本の気候にあっている。日本での栽培の北限は山形・新潟あたりで，それより北の寒い地方での畑での露地栽培は難しい。それより暖かいところであれば一部標高の高い山間地などを除いてどこでも栽培できる。和棉は，夏が暑ければ暑いほどよく育つ。

「洋棉」･･･和棉より種や実が大きく，繊維も長い。温暖地以外の栽培では，実は結実するが実が熟してはじけるのが和棉よりも相当遅くなり，霜にやられて腐ってしまう。また，洋棉は虫がつきやすい。上に向って実をつける。



田嶋著
『ワタが世界を変える　衣の自給について考えよう』より

和棉と洋棉の両方を育てた結果，洋棉は木も大きく育ち実も大きいが，実がはじける前に霜がきて黒くなってできなかった。その結果，６年生では和棉のみ栽培することにした。

２　ワタ（和棉）の栽培について

ワタの栽培については，伊那養護学校中の原分室の先生方，松本市にある「糸の会」の蒔田さん，千葉県「鴨川和綿農園」の田畑さんから教えていただきながら行ってきた。

（1）種まき（使う種は前年度収穫したもの）【５月～６月上旬】

「カキ殻石灰」と「バットグアノ」（コウモリのふん）を入れた畑に一昼夜水につけた種を拳一つ分の間隔で２，３粒ずつ溝に置いていく。種まきの時期は，梅雨入り前。水やりをしなくてすむよう雨の降る前日に播くのがよい。種まきから10 日ほどで発芽する

（2）草取り・間引き・摘心【７月】

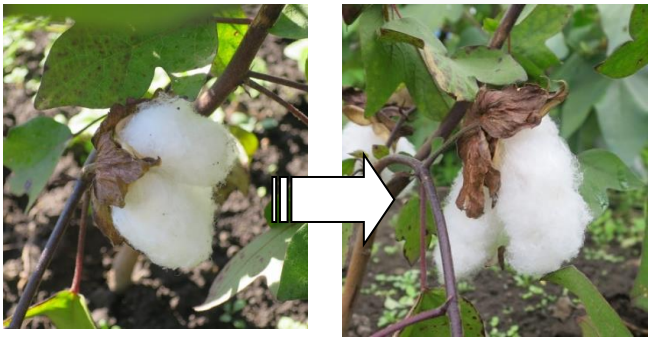
発芽の時期と梅雨が重なるため，水やりは必要ないが「草取り」はこまめにやり，ワタの芽に日光が当たるようにする。また，本葉が出始めたら間引きをする。梅雨の時期は，なかなか大きく育たない。それはワタの根元で根粒菌がコロニーをつくっているためである。そして，梅雨明けとともに一気に草丈が伸びる。そのタイミングで「摘心」を行う。

（3）開花・結実【７月下旬～９月】

夏休みに入ると，枝の途中に形のちがった葉３枚に覆われた緑色や紫色をしたものが付き始める。３枚の葉は「がく」で中にはつぼみがあり，下の枝から徐々に花が咲き始める。花が咲き終わると，がくの中の子房が膨らみ，実ができ始める。

（4）収穫【９月中旬～１１月】

９月入ると，先に花の咲いた下の枝の実がはじけ始め，白いワタが顔を出す。はじけたばかりはまだ未熟だが，しばらくすると熟したものから少しずつ，ぶどうの房のようにわたが垂れ下がってくる。わたが垂れ下がっているものから順に収穫をし，一週間ほど天日干しをすれば，わたくり（種とワタに分ける作業）をして糸をつむぐことができるようになる。



引用参考文献
田中耕司（2015）「ワタが世界を変える」　地勇社　日比輝（1998）「ワタの絵本」　農文協